

《その他》

	植物名等	分類	内容による分類	内容	回答
1	秋植えの花壇	その他	植え方	花壇にコスモスを植えている。その後に植えるもので何か良いものがないか。早く植え付ければ早く花が咲くか。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的なものはパンジー。但し苗作りは8月に始める。 2. 苗は直播きは難しく育苗が大変なので、購入が一般的。 3. 植物はすべて気温と日量によって開花が決まる。早く種を蒔いても大きくなるだけで、咲くのは同じ時期に。
2	イラガの防除	その他	病虫害(防除)	庭木にイラガがついて、取ろうとしたら手を刺された。防除方は。	<ol style="list-style-type: none"> 1. イラガはいろんな樹木につく。 2. 防除は早期発見して、防除する。 3. 市販のスプレー殺虫剤で防除するのが良い。
3	植木の寒肥	その他	施肥	冬に寒肥はやった方が良いのか。	寒い時期の施肥は春芽が動き出す頃効いてくる。昔から有機質肥料を施すやり方がある。肥料というより、腐葉土や堆肥を施し、株元を軟らかくするのが良い。
4	米ぬか	その他	施肥	肥料として使うには、どうしたら良いか。	そのままでも、堆肥か腐葉土と混ぜて使う。混ぜて2~3ヶ月たったもの(腐熟させてから)を使う。
5	シロアリ	その他	病虫害(防除)	植木を切ってもらった。「生木にはシロアリがつく」と言われたが、どうしたら良いか。地際から切り、その上一面に人口芝を敷く予定。	<ol style="list-style-type: none"> 1. シロアリは木の根が腐りだす前につきやすい。庭木を切っても大きさによっては、5年経っても腐りきらず、そこにシロアリがつく。 2. 普通年1回、6月頃に大発生し、移動する。6月頃の蒸し暑い日に発生するので、見つけたらスミチオン乳剤1000倍液を散布すると良い。
6	ゼニゴケ	その他	病虫害(防除)	庭にゼニゴケが繁茂して(約10㎡位)困っている。防除の仕方を知りたい。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 除草剤(ラウンドアップ剤・バスタ剤など)を散布すれば、一番良い。但し、菌で増殖するので再発生することもある。 2. 木酢液や酢でも一応効果はある。 3. 小面積であれば、熱湯を掛けるのも良い。(まわりの草花にかけないよう注意)
7	ヨトウムシ	その他	病虫害(防除)	花壇やプランターのさくらそうに何匹もいて困る。成虫を捕まえたが、どんな成虫か。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成虫は茶褐色の蛾で体長4~5cm。成虫は昼間は植物の葉陰にいて、夕方から活動しかなりのスピードで幾何学的に飛び動くので捕まえるのは難しい。 2. 防ぐには幼虫の捕殺か、スミチオン乳剤1000倍液の灌注が良い。
8	アオバハゴロモ	その他	病虫害(防除)	今年はトビムシ(白い綿に覆われ、今頃は成虫で青緑色)が多くて困っている。	<ol style="list-style-type: none"> 1. アオバハゴロモのことである。防除のポイントは発生初期の防除。幹に産卵し孵化すると綿をかぶり、その中で幼虫が大きくなる。小さいうちは綿も少なく飛ぶのも10cm位。大きくなると綿も多くなり薬も効きにくくなる。

9	スギナ	その他	その他	20坪くらいの畑、スギナが繁茂しているが、除草剤を使って、その後野菜の作付けができるか。	<p>1. スギナが繁っているのを枯らすには、バスター又はラウンドアップという除草剤(茎葉処理剤)を水で希釈して散布し、1週間くらいで枯れるので、その後は作付けできる。土壌処理剤の場合は約1ヶ月は作付けできない。</p> <p>2. スギナは地下茎で繁殖するので、掘りあげて除去しない限り根絶はできない。</p> <p>3. スギナは酸性を好むので、苦土石灰を投入すること。</p>
10	土づくり	その他	土づくり	100㎡位の畑で、①土作りはどうすればよいか、②コケが生えてくる。	<p>①土作りは、よく耕す、良質な有機物(堆肥・腐葉土)を入れる、土の化学的性質(酸度)を良くする。苦土石灰の混入が基本。</p> <p>②コケが生えるのは、排水が悪く、いつもじめじめしているから。</p>
11	腐葉土の作り方	野菜	その他	腐葉土はどうやって作るのか	塩ビで四角く囲い、落ち葉と米ぬかや油粕をサンドイッチ状に(パラパラふる程度)積み込み、1~2回切り返しを行う。乾燥すれば時々水をかける。
12	有機栽培	その他	その他	将来は有機栽培に挑戦したい。方法は？	<p>基本的なこと。</p> <p>1. 堆肥(腐葉土)を作る①材料・・・落ち葉や山野草②作り方・・・堆肥置場を作り、原材料と土をサンドイッチ状に挟み込み、ねかせて発酵させる。その後1~3ヶ月に1回切り替えしを行なう。そして早くも6ヶ月、できれば1年、理想的には2年ねかせる。</p> <p>2. 堆肥のみでは肥料成分が不足するので、菜種油粕、骨粉、魚粉を加え約一ヶ月ねかす。これを肥料として用いる。</p> <p>3. 病害虫対策は有効な農薬に代わる天然資材が少ないので、発生させない環境づくりが第一となる。</p>